



原田織維文庫
文庫 4
706



文庫4
706



昭和三十年十月二十九日
第一商学部より移管

徳島県立図書館蔵書

香月指印

目録

早稲田大学
図書館蔵書

湖東おぼろ

百種全書

- 一 糸二種りり文
- 一 糸苗種りり文
- 一 糸三種りり文
- 一 糸四種りり文
- 一 糸五種りり文
- 一 糸六種りり文
- 一 糸七種りり文
- 一 糸八種りり文
- 一 糸九種りり文
- 一 糸十種りり文
- 一 糸十一種りり文
- 一 糸十二種りり文
- 一 糸十三種りり文
- 一 糸十四種りり文
- 一 糸十五種りり文
- 一 糸十六種りり文
- 一 糸十七種りり文
- 一 糸十八種りり文
- 一 糸十九種りり文
- 一 糸二十種りり文

又
柳市邦の風土記序平く島西海之出生し百穀
の豊饒為由に毎くく古歌詠り又尺所の記す

をを田地いたと一冬春のまほの物まねを化つて
痛のまをねと知らざると面白くもなるといふ
をを春春をねて夏春をねむるとたふし
東の太本一夜のまは二ある大橋あると
流るるえつた但東由の度大なる山と
物るるも一後利と一太本一水一春春をけり七
あるとよき春をけり又る利と一太本一水一春
けりあるとよき春をけり又る利と一太本一水
一春の會さるる一水一太本の春をけり又る利
と一太本の春をけり又る利と一太本の春をけり

後を解ひぬるをたふしよき春をけり又る利と一太本の春をけり
又る利と一太本の春をけり又る利と一太本の春をけり

春天虫目之傳

○八十日後の春春をねむると面白くもなるといふ
をを春春をねて夏春をねむるとたふし
東の太本一夜のまは二ある大橋あると
流るるえつた但東由の度大なる山と
物るるも一後利と一太本一水一春春をけり七
あるとよき春をけり又る利と一太本一水一春
けりあるとよき春をけり又る利と一太本一水
一春の會さるる一水一太本の春をけり又る利
と一太本の春をけり又る利と一太本の春をけり

菅あさ^サうらちか減るとて葉あさるは又九先二口あり
割増より所花梅あたる増分をうんと細かけ葉
づはあそ麻屋あさるよりほなるといふ目下十日あつた
増分全くと葉を敷く物といふことあり

○中細の織を織たる細を中細より一倍りあつた
りせるといふ葉をうかつる又細の指あさるの葉を
そ本細より一倍りあつた二人の葉をうかつることあり
とありあさる新割増は勿論葉は所産川をあらういは
りてあさる二代と二代と高とさういふことありあさるの
ことあり

切あつたて、葉を葉を葉に葉に 但春葉は初より海葉
一甲より麻を織るといふ所は毎日々とくくあり
○二日あさる下よりあつた葉をうかつることあり細と中細の
上へ葉をあつたて、葉を葉を葉を葉に細の指より
あつたて、葉をうかつるといふことあり葉の二、三ありわつし
あつたて、葉をうかつるといふことあり葉を織るといふことあり
中細より一日より麻を織るといふことありは格別あり又指を織るといふ
ことありあつたて、葉をうかつるといふことあり葉を織るといふことあり
二日あさる下よりあつた葉をうかつるといふことあり

細きと葉ありて葉葉に分ち腐乾たる是ハ瓶ビンを製
作する所なりと知りて手加へて場産の葉より葉をとり
葉を乾燥せしむる色場合を尋ねて葉ありて一日に
四本のころりて一葉にのみ

○二日目の葉ありて葉ありて九日目の葉ありて
場合を尋ねて細きと葉ありて瓶を製する所なりと
又記揚ぎる内葉ありて手加へて葉ありて一日に
二日目に一日の葉ありて一日の葉ありて一日の葉ありて
葉あり

○三日目の葉ありて葉ありて葉ありて葉ありて
葉ありて葉ありて葉ありて葉ありて葉ありて葉ありて

○四日目の葉ありて葉ありて葉ありて葉ありて葉ありて

○五日目の葉ありて葉ありて葉ありて葉ありて葉ありて

○六日目の葉ありて葉ありて葉ありて葉ありて葉ありて

さうし行きて下しそか庭中まで流るりあり申す

○庭記後、東北葉を毎日二十七度あるを記す

葉の山と云ふし葉を二つにまわす日ありしを記す

又庭記より言月の中し洞を毎日鹿を飼ふ事あり

○庭記後、今日梅を葉の西屋の根と二日たのめ

に云せんぞうし行きて下しる事等の言ふ事あり

白濁ありし但葉を削りかきし衛公は元ハあり

葉二十度月満あり葉までむきまへらげ風に入ら

ぬしと行きて下しる事ありしと云ふ事あり

ちまふりしと云ふ事あり

○庭記より日ありを後の事ありしと云ふ事あり

あり院まで葉の山と云ふ事ありしと云ふ事あり

と云ふ事ありしと云ふ事ありしと云ふ事あり

月ありしと云ふ事ありしと云ふ事ありしと云ふ事あり

流るる事ありしと云ふ事ありしと云ふ事ありしと云ふ事あり

○六七日の揚子名をさうと云ふ事ありしと云ふ事あり

葉を二十七度計り拾ふ事ありしと云ふ事ありしと云ふ事あり

よれと揚子名ありしと云ふ事ありしと云ふ事ありしと云ふ事あり

揚子名ありしと云ふ事ありしと云ふ事ありしと云ふ事あり

と云ふ事ありしと云ふ事ありしと云ふ事ありしと云ふ事あり

如春よりある候はるるを天候の別を八十八の夜に候はる
有法を春より夏に月より秋に候はるるを春より秋に候はる
候はるるを春より秋に候はるるを春より秋に候はる
日より候はるるを春より秋に候はるるを春より秋に候はる
天候の別候はるるを春より秋に候はるるを春より秋に候はる

○春候に別候はるる日より又土に日より候はるるを春より秋に候はる
るるに二月より日より候はるるを春より秋に候はるるを春より秋に候はる
りより候はるるを春より秋に候はるるを春より秋に候はるるを春より秋に候はる
候はるるを春より秋に候はるるを春より秋に候はるるを春より秋に候はる
候はるるを春より秋に候はるるを春より秋に候はるるを春より秋に候はる

候はるるを春より秋に候はるるを春より秋に候はるるを春より秋に候はる
一候に候はるるを春より秋に候はるるを春より秋に候はるるを春より秋に候はる
候はるるを春より秋に候はるるを春より秋に候はるるを春より秋に候はる
候はるるを春より秋に候はるるを春より秋に候はるるを春より秋に候はる
候はるるを春より秋に候はるるを春より秋に候はるるを春より秋に候はる

○春候に別候はるる日より又土に日より候はるるを春より秋に候はる
候はるるを春より秋に候はるるを春より秋に候はるるを春より秋に候はる
候はるるを春より秋に候はるるを春より秋に候はるるを春より秋に候はる
候はるるを春より秋に候はるるを春より秋に候はるるを春より秋に候はる
候はるるを春より秋に候はるるを春より秋に候はるるを春より秋に候はる

屋敷の古民も仍も平しくと判り来りし海に花籠とて原
そのこ但所内は花籠より来るもの日二日の民所は花籠の
又この所は花籠より来るもの日二日の民所は花籠の
こころをさうりと花籠のこころをさうりと花籠のこころを
そとさうりの用候をたたりてし

○花籠の民も仍も平しくと判り来りし海に花籠とて原
そのこ但所内は花籠より来るもの日二日の民所は花籠の
又この所は花籠より来るもの日二日の民所は花籠の
こころをさうりと花籠のこころをさうりと花籠のこころを
そとさうりの用候をたたりてし

○花籠の民も仍も平しくと判り来りし海に花籠とて原
そのこ但所内は花籠より来るもの日二日の民所は花籠の
又この所は花籠より来るもの日二日の民所は花籠の
こころをさうりと花籠のこころをさうりと花籠のこころを
そとさうりの用候をたたりてし

○ 庭に於て葉をとり、葉を乾かして、但し庭に乾かす
 葉をのりし、細く毎日三度乾かして、その葉を
 乾かす。但し庭に乾かす。九六日ある。揚子江の
 毎日葉を八度乾かして、乾かす。二度乾かす。
 葉を乾かす。揚子江の葉を乾かす。

○ 庭に於て葉をとり、葉を乾かして、但し庭に乾かす
 葉をのりし、細く毎日三度乾かして、その葉を
 乾かす。但し庭に乾かす。九六日ある。揚子江の
 毎日葉を八度乾かして、乾かす。二度乾かす。
 葉を乾かす。揚子江の葉を乾かす。

○ 庭に於て葉をとり、葉を乾かして、但し庭に乾かす
 葉をのりし、細く毎日三度乾かして、その葉を
 乾かす。但し庭に乾かす。九六日ある。揚子江の
 毎日葉を八度乾かして、乾かす。二度乾かす。
 葉を乾かす。揚子江の葉を乾かす。

○ 庭に於て葉をとり、葉を乾かして、但し庭に乾かす
 葉をのりし、細く毎日三度乾かして、その葉を
 乾かす。但し庭に乾かす。九六日ある。揚子江の
 毎日葉を八度乾かして、乾かす。二度乾かす。
 葉を乾かす。揚子江の葉を乾かす。

○ 庭に於て葉をとり、葉を乾かして、但し庭に乾かす
 葉をのりし、細く毎日三度乾かして、その葉を
 乾かす。但し庭に乾かす。九六日ある。揚子江の
 毎日葉を八度乾かして、乾かす。二度乾かす。
 葉を乾かす。揚子江の葉を乾かす。

○ 庭に於て葉をとり、葉を乾かして、但し庭に乾かす
 葉をのりし、細く毎日三度乾かして、その葉を
 乾かす。但し庭に乾かす。九六日ある。揚子江の
 毎日葉を八度乾かして、乾かす。二度乾かす。
 葉を乾かす。揚子江の葉を乾かす。

○ 庭に於て葉をとり、葉を乾かして、但し庭に乾かす
 葉をのりし、細く毎日三度乾かして、その葉を
 乾かす。但し庭に乾かす。九六日ある。揚子江の
 毎日葉を八度乾かして、乾かす。二度乾かす。
 葉を乾かす。揚子江の葉を乾かす。

てかんぎの幅よを奪て獲を切て植ちをお母の意
とあり方あると然りたるものこわしとさうたる獲
○獲し植ち地の文多に植ちたるを世人のまにまに
一本つて若ハ二三年一雨に植ちたるははらとさるし
つやしあるとまに、あのかの取法中ト初りし
麦時二雨ころと地味と千人の獲ちのゆきと
てしそ外時きし川のさうろぬとまに能くある
この地味ぬきとさうろぬとまにぬきとさうろぬ
今をとおかたうと若あをけつり植ちたるは
保る。少くともと成三年のるははらとさるし。

を修るまに二年目より獲ちし但地のはげしく
然るてまにころりまにぬきとさうろぬとまに
○又獲ちを植ち法はと強執したるをさうろぬと
お方の知を切獲ちゆきかを種とさるはまに
種まみちたるぬきと地味とたぬきとさるしと
ぬきとさるぬきとさるぬきとさるぬきとさるぬきと
植ぬきとさるぬきとさるぬきとさるぬきとさるぬきと
さうろぬきとさるぬきとさるぬきとさるぬきと
今せとまにぬきとさるぬきとさるぬきとさるぬきと
てはらぬきとさるぬきとさるぬきとさるぬきとさるぬきと

夢せしより身と心をなするを細と
徒を物を保下さるを平修と夫を
りかきり并に於て於る類は志を物を
保るよとるものなり

徳
温
右
軒

早稲田大学図書館

011488480199